

顧客起点で開発方針をつなぐ「構想設計の手法と道具」プロトタイプを公開
—言葉で伝わらないものをイメージで対話を促す—

公表元：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

発表・掲載日：2017年6月22日

TCIのコーディネーターが注目するポイント

発表内容は、産業技術総合研究所が、顧客視点を取り入れた開発方針を、開発期間を通して関係者間で共有できる、デザイン思考の新しいプロセスを提案し、「構想設計の手法と道具」プロトタイプとしてシステム化して公開したというもの。

注目する1つ目のポイントは、製品・サービスの開発の成否を握る構想設計にイメージを取り入れて全ての知見を集約する仕掛けであること。

2つ目のポイントは、イメージの関係性により問題定義を促す、デザイン思考の新しいプロセスを提案しシステム化したこと。

3つ目のポイントは、顧客視点を保持し、デザイン、設計から製造、販売まで開発方針をぶれずに貫させることが可能であること。

従来、日本のものづくりでは、「製造作り込み設計力」とも言える開発下流の設計機能（製造プロセス設計、設計作り込みなど）が重要視される傾向があった。近年、製品やサービスの成否を決める開発上流の「設計仕様決定力」や体験価値の高い設計仕様を導き出すために、顧客視点の構想設計の重要性が認識されるようになってきた。

今回開発したプロトタイプの効果は①「使う専門家」のアイデアを有効活用、②「作る専門家」の知見を開発上流が前倒しで検討、③顧客視点を関係者間で共有し、デザイン系専門家と工学系専門家の検討の分断を解消、の3点である。

「構想設計の手法と道具」プロトタイプは、言葉で伝えにくいものをイメージで伝えて、協業を阻害する壁を超えて創発につなげることが目的である。「使う専門家」「考える専門家」「作る専門家」の対話の壁（立場、専門、言葉など）を取り除き、非言語イメージから言語へ、周辺関係性から課題へと、段階を踏んで知見を集約する、集合知でのコトづくりの仕組みであるが、広くコミュニケーション創発にも有効と考えられる。

今後、サンプル提供制度により試用を行う企業を募り、応用ポテンシャルと効果の検証や、プロトタイプの改良を行うと共に、橋渡し企業の探索を行う予定であることから今回TCIコーディネーターが注目する技術として紹介した。

ここで紹介した「構想設計の手法と道具」に興味を持たれ、詳しい内容がご覧になりたい方は下記URLをクリックすると、公表元の技術情報を直接ご覧いただけます。

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20170622/pr20170622.html

また、本技術情報について、ご関心・ご質問・ご要望等がございましたら、つくば研究支援センター 産学官連携コーディネーターがフォローいたします。下記メールアドレス宛にお問合せください。

・連絡・問合せ先 E-mail： tsnet-j@tsukuba-tci.co.jp